

# カスタニェー社の販売台帳を通して見る 18世紀カタルーニャ綿業 ——捺染綿布、捺染亜麻布、商人ネットワーク(2)——

奥野良知

## 3章 カスタニェー社とカタルーニャ商人ネットワーク

### 1) 商人ネットワーク研究におけるカスタニェー社史料の意義

カスタニェー社の『販売台帳1780-88』は、前章で見た商品の種類およびその市場についての重要な情報に加えて、同社が自社の商品を、カタルーニャの特定の市町村出身の商人が交易離散共同体（コマーシャル・ディアスポラ）としてスペイン各地に展開していた多様な商人ネットワークを駆使して、スペイン中の広範囲にわたる市場に、あるいは植民地市場に販売していたことも鮮明に示している。

カスタニェー社の『販売台帳』に基づいて、同社が自社商品を販売するに際して用いていたカタルーニャ商人ネットワークを、商人の出身地別に表にしたのが、表10から表27である<sup>21)</sup>。表は、出身地別の商人の数が多いものから順番に並べてある<sup>22)</sup>。

これらの表から、カスタニェー社が用いていた商人ネットワークは、大きく3つの類型に分けることができると思われる。

第一の型（Ⅰ型）：クポンス Copons やトウルタリャー Tortellà のような、内陸部の非常に小規模な村落の商人がスペインの広い範囲にわたって展開していた事例。

第二の型（Ⅱ型）：ビック Vic やウロット Olot のような内陸部の比較的規模の大きい町や市の商人が、やはりスペインの広い範囲にわたって展開していた事例。

第三の型（Ⅲ型）：カネット・ダ・マル Canet de Mar やカレーリャ Calella のような、沿岸部の港町村の商人が主にスペインの他の地方の沿岸部の市町村に展開していた事例。

表10～表27が示している重要な点は、まず何と言っても、カスタンエー社が自社の製品（靴、更紗、捺染亜麻布）をスペインおよび植民地に販売するに際して、上記の3つの類型の商人ネットワークを同時に駆使していることである。そして、さらにこのことは、18世紀カタルーニャの更紗製造業が、あるいはより大きく言って18世紀カタルーニャ綿業が発展できた重要な要因の一つに、カタルーニャ商人ネットワークの存在があったことを明瞭に示しているといえる。これは極めて重要な点である。というのも、18世紀カタルーニャ綿業と同世紀のカタルーニャ商人ネットワークとの密接な関係性を正面から論じた研究は、管見の限りほぼ存在しないからである。

カタルーニャが目覚ましい経済発展を遂げた18世紀に、スペイン中に交易離散共同体としてのカタルーニャ商人ネットワークが展開されたことは、少なからぬ研究者の目を奪い、それについての研究もなされてきた。しかしながら、それについての従来の研究は、カタルーニャ農村毛織物業の発展とカタルーニャ商人ネットワークの関係性を論じた研究<sup>23)</sup>、18世紀のカタルーニャの経済発展という大きな文脈のなかで行われた18世紀カタルーニャ商人ネットワークについての研究<sup>24)</sup>、商人の出身地の市町村単位で考察された商人ネットワークの研究（それも圧倒的にI型のクポンスおよびそれに隣接するカラフなどの研究に集中している）<sup>25)</sup>、駐在地別のカタルーニャ商人の研究<sup>26)</sup>などが主で、特定の更紗製造企業に関する研究で商人ネットワークとの直接的な結びつきについて言及しているものが無い訳ではないが、その場合でも、残念ながら、対象とする企業と上記の商人ネットワークの3類型のうちの一つとの関係に触れているに過ぎない<sup>27)</sup>。

確かに18世紀のカタルーニャの経済発展の象徴的な現象ともいえるカタルーニャ商人ネットワークと、18世紀後半には経済発展の主役となるとともに、18世紀末から19世紀前半にかけてカタルーニャの産業革命の主役となっていく18世紀カタルーニャ綿業との密接な関係性は、カタルーニャでは18世紀を扱う史家のあいだでは暗黙の了解事項とされてきたと思われる。しかしながら、それを正面から論じた研究が以外にも少ないのは、更紗製造企業の史料のなかで、販売先の商人の情報を明記してある史料があまり残っていないという事情もある。

以上のことから、カスタンエー社が上記3種類の商人ネットワークを同

時に駆使していた様子を鮮明に語っている同社の『販売台帳』の史料は、同社の発展の大きな前提条件の一つに、この3種類のカタルーニャ商人ネットワークの存在があったことを示しているだけでなく、18世紀のバルセローナを中心とする更紗製造業、さらには同世紀のカタルーニャ綿業の発展そのものにとって、この3種類のカタルーニャ商人ネットワークの存在が極めて重要な役割を果たしていたことを示唆している。

## 2) カスタンニェー社が用いていた商人ネットワーク

さて、このカタルーニャ商人ネットワークであるが、その存在は、同時代人の目にも強い印象を与えていたことが、王立商業評議会 *Real Junta General de Comercio* の書記で、当時の経済を最もよく知る人物の一人だったと思われるエウヘニオ・ラルーガ *Eugenio Larruga* の1792年に出版された著書の文章によって伺える。「この地方（ソリア）では、ある程度の規模を持つ村で、カタルーニャ人が定住し、店を構えて、靴下や綿織物や特に靴などの商品を扱っていないところはほぼ皆無である。同じようなことは、今日では、（イベリア）半島中で起こっている」。（）内筆者。また、18世紀末年から19世紀の最初の数年間にかけて出版されていた商業年鑑 *Almanak Mercantil* には、マドリードに商店を構え、専らカタルーニャ産の商品を扱っていた9人のカタルーニャ人商人の名前が記載されている<sup>28)</sup>。

では、このようなカタルーニャ商人ネットワークのなかでも、カスタンニェー社が用いていた上記3種類の商人ネットワークとはどのようなものだったのかについて、表10～表27を参照しながら見ていくことにする。

まず、商人の出身地の市町村の立地についてだが、I型とII型は、いずれも、18世紀になって農村工業に特化していった中北部農村地域に含まれる。粗質ワインの生産地だった南東部で17世紀末から始まったブドウ蒸留酒の北西ヨーロッパへの輸出は、18世紀カタルーニャの経済発展の起爆剤とされている。そして南東部は18世紀を通して、ブドウ栽培業と蒸留酒醸造業に特化していくのだが、それに伴って、毛織物業へ特化していったのが中北部農村地域であった。そして、中北部の毛織物業は、集積の経済の効果などによって、スペインの他の毛織物業産地との競争を優位に展開しながら発展し、さらに、18世紀後半の特に1780年代以降、新産業である綿の紡績・織布業に業種転換していった<sup>29)</sup>。他方、III型は、中北部の東側、バルセローナの北側に位置する沿岸部に位置し、そのほとんど

はマレスマ Maresme 郡に属する。そして、表10～表27にある市町村のなかで、ブドウ栽培とブドウ蒸留酒製造に特化した南東部と穀物生産や乾燥果物生産などに特化した西部に位置するものが一つもないという点は興味深い。では、以下、I型から順に、各類型の特徴を見ていく。

**I型** I型の大きな特徴は、表10のクポンスや表12のトゥルタリヤーのような、非常に小規模な村落の商人がスペインの広い範囲にわたって商業ネットワークを展開していたことにある。そして、このクポンスとトゥルタリヤーという二つの村落は、単にI型の代表格というにとどまらず、18世紀カタルーニャ商人ネットワークそのものの代表的な存在であるとともに、18世紀カタルーニャの経済発展を象徴する存在ともいえる。

この二つの村落に共通しているのは、まず、人口規模が極めて小さかった点である。クポンスの人口は、1717年で186人、1787年には2.5倍に増加しているとはいえ、468人に過ぎない。トゥルタリヤーの人口も、1717年には僅か163人で、1787年には約6倍にも増加しているとはいえ、971人である。また、この二つの村落に共通している点は、中北部農村工業地域に立地しているとはいえ、中北部のどちらかといえば周辺部に位置していることである。アノイア Anoià 郡にあるクポンスの場合は、イグアラダ Igualada という重要な農村工業産地に隣接し、なおかつバルセロナからサラゴサを経てカスティーリヤの中心地部のマドリッドなどへ至る主要な街道(王道 *camí ral*) 沿いに位置していた。他方、ガロッチャ Garrotxa 郡のトゥルタリヤーの場合、カタルーニャ北部の商工業の重要な中心地であるウロットに隣接していることと、フランスに近いことが、重要な意味を持っていたと考えられる。そして、クポンスの場合は、中北部農村工業地域にあるにもかかわらず、農村工業がほとんど行われていない農村だったが、トゥルタリヤーの場合は、農村工業がある程度は存在した<sup>30)</sup>。

この二つの村については、同時代人のフランシスコ・デ・サモーラ Francisco de Zamora が驚きをもって記している。サモーラは、バルセロナの高等法院の刑事判事を務めていたカスティーリヤ人で、1787年に行った視察旅行の記録にクポンスのことを、「すべての家が新しく、石と良質のモルタルで作られており、2階部分と3階部分、バルコニーを持ち、この国(カタルーニャ)では見ることもない装飾が施されている。女性たちの身だしなみは非常に清潔で、とても質の良い服を着ている。[…]。この村は、アマゾン amazonas の村と呼ばれていて、それは、男性は全員村の

外に出ていて、〔スペイン〕王国とインディアス（スペイン領アメリカ植民地）の各地に散らばっていて、たまにしか家に帰ってこないからである」と記している<sup>31)</sup>。（ ）と〔 〕は筆者。

また、サモーラはトゥルタリヤーについては、この村の驚異的な人口増は商業活動によるものであり、「この村では商業活動が盛んで、それは会社 *compañías*（パートナー・シップ）〔の形態〕によって行われていて、常に100人の男性が村の外にいる。その商業活動は、セビーリヤ、カディス、ムルシア、グラナダ、マラガやその他のスペインの都市で行われている」と記している<sup>32)</sup>。（ ）と〔 〕は筆者。

そして、クポンスに関しては、18世紀のクポンス商人たちの第一世代の出自は、主に農民だったことがムゼットの研究によって分かっている<sup>33)</sup>。

クポンスの場合、表10から分かるように、そのネットワークは、スペイン中に極めて広範囲に展開されていた。特に、カスティーリヤ王国領の北半分、現在のカスティーリヤ・イ・レオン自治州で多くの商人が活動していた。特にバリャドリード *Valladolid* には、カスタンニェー社の史料に出てくるクポンス商人46人（延べ47人）のうち、8人もが駐在している。また、アンダルシーアでは、アンドウッハル *Andújar* に8人が駐留している点が目を引く。その理由は、恐らくは、この地が、いくつかの街道の結節点にあったためではないかと推測される。また、カスティーリヤを中心に展開している割には、マドリードやその近郊に駐在している商人がいないことも、クポンスの特徴といえよう。

これに対し、トゥルタリヤーの場合は、表12から分かるように、そのネットワークの展開は、スペインの南半分に大きく偏っている。この点は、サモーラの記述とも一致している。なかでも、カスタンニェー社の史料に出てくるトゥルタリヤー商人29人（延べ33人）のうち、9人もがグラナダ *Granada* に駐在している点が目を引く。また、カディス *Cádiz* にも2名が駐在しており、彼らは、植民地への輸出に関与していた可能性が高いと思われる。

クポンスやトゥルタリヤー以外でI型に含まれるものには、例えば表17のカラフ *Calaf* や表19のジルネーリヤ *Gironella* などがある。カラフは、クポンスの比較的近くにある農村で、人口は1717年に1,041人、1787年に1,314人と、クポンスよりは大きいものの、その商業活動の展開は、クポ

ンスから比べればやや地味である。商人の分布は、カステイーリャ王国領北半分に限定されている。

カラフの商人の分布で目を引くのは、レオン León のバルデーラス Valderas に3人が駐在している点である。ここは、比較的小規模な村落だが、実はこの村は、近世においては重要な定期市が開催されていた村だった<sup>34)</sup>。当時は、様々な商品の販売において、定期市の占める重要は非常に高く、18世紀のカタルーニャ商人たちも、このような定期市で活動していたことが、ムゼットやトーラスの研究によって知られている<sup>35)</sup>。

他方、ジルネーリャは、人口が1717年の331人、1787年の513人と非常に小規模な村落で、バルガダー Bergadà 郡の行政および商工業の中心都市であるベルガ Berga に隣接している。いずれも、クポンスと同様に、家内紡績を除いて、農村工業の主要な工程はほとんど行われていない。

**II型** II型の大きな特徴は、ビックやウロットのような内陸部の比較的規模の大きい町や市の商人が、やはりスペインの広い範囲にわたって展開していた点にある。

ビックは、ウゾーナ郡の行政および商工業の中心都市であるとともに、大聖堂を有する都市でもある。人口は1717年に4,911人、1787年に9,193人で、当時の水準ではかなりの規模の都市といえる。カスタンニエ社の販売台帳では、商人の数でビックはクポンスに次ぐ第二位となっている。表11によると、ビックの商人は、クポンス以上にスペイン中に満遍なく展開している。また、スペイン王国の首都マドリードに4人が駐在していることもビックの特徴といえる。

他方、表14のウロットは、ガロッチャ郡の中心地であるとともに、カタルーニャ北部の商工業の中心的な役割を担っていた町の一つで、人口は1717年の2,868人から1787年の9,383人へと3倍以上の増加を示しており、特に1787年時点では、当時のカタルーニャでは、ビックをやや上回る第5番目の人口規模であった<sup>36)</sup>。ウロットの商人の分布は、大きくいって、スペイン南部に偏っており、その傾向は、ウロットに隣接するトゥルタリャーとやや近い。特にアンダルシアの占める割合が非常に高く、約半数が同地方に駐在している。特にグラナダが多く、同地に6人が駐在している。また、カディスにも4人が駐在しているが、このうちの1名が、後に見るIII型のカネットの商人とパートナー・シップを組織していることから、彼らは、植民地への輸出に携わっていたと考えて間違いのないであら

う。

ビックとウロット以外でII型に含まれるものには、表16のマンレッザ Manresa がある。マンレッザは、バージャス Bages 郡の中心都市で、周辺農村域の商工業の中心地でもあり、人口は1717年に5,669人、1787年には8,421人で、いずれの数字も、当時の水準ではかなりの規模といえる。その商人の分布は、カステイーリャ王国領北半分に大きく偏っている。特にマドリード近郊のアルカラ Alcalá に3人、アランフエス Aranjuez に2人が駐在している点が目を引く。アルカラは大学町として重要であり、アランフエスは離宮があることで重要な場所であった。

また、表18のマタロー Mataró も、立地の点では例外であるが、II型に含めることができると考えられる。マタローはIII型の町村の多くが属するマレスマ郡に属するが、後に見るIII型の町村とは異なり、マタローは同郡の中心地であり、周辺域の商工業の中心地でもあった。人口規模も大きく、1717年に5,918人、1787年には9,657人で、1787年の数字は、当時のカタルーニャで第4位であった。その商人の分布は、傾向を述べるのがやや難しいものではあるが、マドリードとアランフエスに1名ずつ駐在している点が目を引く。

ところで、II型にやや近いが、正確にはII型とは別に第4の型(IV型)とすべきと思われるものに、表21のイグアラダと、表26のベルガがある。イグアラダもベルガも、それぞれアノイア郡とバルガダー郡の中心地であり、周辺農村部の商工業の中心地であるが、とりわけこの二つの町は、農村工業産地、毛織物業産地としての性格が非常に強く(特にイグアラダの場合)、両者ともに、1780年代以降に綿業に転換していき、カタルーニャの工業化において重要な役割を果たすことになる。また、表22のマンリェウ Manlleu も、典型的な農村工業村落といえる<sup>37)</sup>。

**III型** III型の大きな特徴は、カネット・ダ・マルやカレーリャのような、主にマレスマ郡の沿岸部の港町村の商人が、主に海路にて、スペインの他の地方の沿岸部の市町村に商業ネットワークを展開していた点にある。

III型で傑出しているのが、表13のカネット・ダ・マルである。人口は、1717年に1,861人、1787年に3,356人となっていて、カスターニエ社の史料には、29人のカネット商人が登場するが、そのうち、実に半数の15人がカデイスに駐在している。そして、カデイスに駐留していたこれらのカネット商人が植民地への輸出に携わっていたことは、前章の分析により明

らかであろう。また、史料に単に「カネットの」と記載されている商人が4人いるが、前章でも述べたように、これらの商人に販売された商品の量が、カディスに販売された商品の量と同様の動きを示していることから、これらのカネットの商人4人も、実際にはカディス経由での植民地への輸出に携わっていた可能性が極めて高い。前章でも述べたように、1778年の「自由貿易」規則以後も、カディスは、カタルーニヤの対植民地において、極めて重要な港であり続けたし、そのカディスとカタルーニヤ産品を繋いでいたのは、カネットの商人だったのである。ちなみに、すでに触れたが、カスタンエー社の史料には、カネットの商人とウロットの商人によりパートナー・シップが形成されていた事例が1件あり、興味深い。カディス以外のカネット商人の分布では、ガリシアとバレンシアが比較的重要だったといえよう。

同じⅢ型に入るのが、表15のカレーリヤと表20のアレンチ・ダ・マル Arenys de Mar である。いずれも、マレスマ郡に属する港町村で、カレーリヤの人口は1717年の768人、1787年の2,637人、アレンチ・ダ・マルの人口は1717年の1,245人、1787年の4,253人であった。この2ヶ所の商人の分布は、しかしながら、先に述べたカネットとは大きく違う点がある。それは、カレーリヤの商人もアレンチの商人も、カディスに駐在していないことである。カレーリヤの商人の分布で比較的目的立つのは、バレンシアのアルジューラ Alzira の4人とモルベードレ Morvedre (サグント Sagunt) の3人である。アンダルシアにも4人いるが、カディスではなく、アルメリア Almería とロンダ Ronda に2人ずつである。また、ガリシアにも展開している。もっとも、バレンシアとガリシアに展開しているという点に関しては、カネットとカレーリヤでは共通しているといえるかもしれない。

最後に、表28でカタルーニヤの首都バルセローナの事例を見てみる。この表から分かることは、バルセローナの場合は、スペイン他地域に駐在している者も数名いるとはいえ、基本的にバルセローナの商人は、同地を離れることなく商業活動に従事していたということである。スペイン各地に交易離散共同体として商業ネットワークを形成していたのは、バルセローナ以外の市町村の住人だったということが、あらためて確認できる。



カスタニエー社の販売台帳を通して見る18世紀カタルーニャ綿業

表10

クポンス Copons (アノイア Anoia 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年186人、1787年468人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Granada	5	Granada	5	Andalucía	14
Andújar	8	Jaén	9		
Jaén	1				
Arévalo	3	Ávila	3	Castillay León	20
Rodrigo	1	Salamanca	2		
Salamanca	1				
Segovia	3	Segovia	3		
Medina	2	Valladolid	12		
Olmedo	1				
Peñafiel	1				
Valladolid	8				
Cuenca	2	Cuenca	2	Castilla-La Mancha	3
Talavera de la Reina	1	Toledo	1		
Badajoz	2	Badajoz	2	Extremadura	5
Cáceres	3	Cáceres	3		
Santiago	1	La Coruña	1	Galicia/Galiza	1
San Sebastian	4	Guipúzcoa	4	País Vasco/Euscadi	4
計46人 (延べ47人)					

表11

ビック Vic (ウゾーナ Osona 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年4,911人、1787年9,193人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Jerez	3	Cádiz	3	Andalucía	3
Zaragoza	2	Zaragoza	2	Aragón	4
?	1	?	1		
Aranda	1	Burgos	1	Castilla y León	2
León	1	León	1		
Madrid	4	Madrid	4	Madrid	4
Albacete	1	Albacete	2	Castilla-La Mancha	3
Hellín	1				
Manzanares	1	Ciudad Real	1		
Badajoz	4	Badajoz	4	Extremadura	4
A Coruña	2	A Coruña	5	Galicia/Galiza	5
Santiago	3				
Vinaròs	1	Castelló	1	València	1
Lleida	1	Lleida	1	Catalunya	19
Vic	18	Barcelona	18		
計42人 (延べ44人)					

表12

トウルタリヤーTortellà (ガロッチャGarrotxa 郡、ジローナ Girona 県) 人口：1717年163人、1787年971人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Cádiz	2	Cádiz	2	Andalucía	15
Granada	9	Granada	9		
La Carolina	2	Jaén	4		
Jaén	1				
Linares	1				
Albacete	2	Albacete	2	Castilla-La Mancha	3
Manzanares	1	Ciudad Real	1		
Ferrol	1	A Coruña	1	Galicia/Galiza	1
Cartagena	3	Murcia	6	Murcia	6
Lorca	1				
Murcia	2				
Orihuela	1	Alacant	1	València	3
Morvedre/Sagunt	2	València	2		
Cervera	2	Barcelona	2	Catalunya	5
Tortellà	3	Girona	3		
計29人 (延べ33人)					

表13

カネット・ダ・マル Canet de Mar (マレスマ Maresme 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年1,861人、1787年3,356人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Cádiz	15	Cádiz	15	Andalucía	15
A Coruña	1	A Coruña	1	Galicia/Galiza	4
Vilaxoán	3	Pontevedra	3		
Cartagena	1	Murcia	1	Murcia	1
Alzira	1	València	5	València	5
Xàtiva	2				
València	2				
Canet de Mar	4	Barcelona	4	Catalunya	4
計 29人					

表14

ウロット Olot (ガロッチャ Garrotxa 郡、ジローナ Girona 県) 人口：1717年2,868人、1787年9,383人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Cádiz	4	Cádiz	4	Andalucía	14
Granada	6	Granada	7		
Motril	1				
Jaen	1	Jaén	1		
Málaga	2	Málaga	2		
Ciudad Rodrigo	1	Salamanca	1	Castilla y León	1
Madrid	1	Madrid	1	Madrid	1
Logroño	1	La Rioja	1	La Rioja	1
Cartagena	3	Murcia	2	Murcia	2
Murcia	2				
València	1	València	1	València	1
Olot	7	Girona	7	Catalunya	7
計27人 (延べ30人)					

表15

カレーリャ Calella (マレスマ Maresme 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年768人、1787年2,637人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Almería	2	Almería	2	Andalucía	4
Ronda	2	Málaga	2		
A Coruña	1	A Coruña	2	Galicia/Galiza	2
Santiago	1				
Alacant	1	Alacant	1	València	9
Alzira	4	València	8		
Morvedre/Sagunt	3				
Requena	1				
Calella	6	Barcelona	6	Catalunya	6
計21人					

表16

マンレツザ Manresa (バージャス Bages 郡、バルセローナ県 Barcelona 県) 人口：1717年5,669人、1787年8,421人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Aranda	1	Burgos	1	Castilla y León	2
Segovia	1	Segovia	1		
Alcalá	3	Madrid	5	Madrid	5
Aranjuez	2				
Logroño	2	La Rioja	2	La Rioja	2
Manresa	2	Barcelona	2	Catalunya	2
計 11 人					

表17

カラフ Calaf (アノイア Anoia 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年1,041人、1787年1,314人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Valderas	3	León	3	Castilla y León	7
Palencia	4	Palencia	4		
Logroño	2	La Rioja	2	La Rioja	2
計 8 人 (延べ9人)					

表18

マタロー Mataró (マレスマ Maresme 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年5,918人、1787年9,657人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Zaragoza	1	Zaragoza	1	Aragón	1
Madrid	1	Madrid	2	Madrid	2
Aranjuez	1				
Cartagena	1	Murcia	3	Murcia	3
Murcia	2				
Mataró	2	Barcelona	2	Catalunya	2
計 7 人 (延べ8人)					

表19

ジルネーリャ Gironella (バルガダー Bergadà 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年331人、1787年513人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Palencia	3	Palencia	3	Castilla y León	4
Tordecillas	1	Valladolid	1		
Tuy	1	Pontevedra	1	Galicia/Galiza	1
Gironella	3	Barcelona	3	Catalunya	3
計 8人					

表20

アレンチ・ダ・マル Arenys de Mar (マレスマ Maresme 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年1,245人、1787年4,253人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Málaga	2	Málaga	2	Andalucía	2
A Coruña	1	A Coruña	1	Galicia/Galiza	1
Arenys de Mar	1	Barcelona	1	Catalunya	1
計 4人					

表21

イグアラーダ Igualada (アノイア Anoia 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年1,630人、1787年4,925人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Teruel	2	Teruel	2	Aragón	2
Palencia	1	Palencia	1	Castilla y León	1
Igualada	1	Barcelona	1	Catalunya	1
計 4人					

表22

マンリエウ Manlleu (ウゾーナ Osona 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年885人、1787年1,481人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Madrid	2	Madrid	2	Madrid	2
Guadalajara	2	Guadalajara	2	Castilla-La Mancha	2
Manlleu	1	Barcelona	1	Catalunya	1
計3人(延べ5人)					

表23

サン・イポーリット・ダ・ブルトラガー Sant Hipòlit de Voltregà (ウゾーナ Osona 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年1,381人、1787年1,832人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Granada	3	Granada	3	Andalucía	3
計3人					

表24

サン・キルザ・ダ・バソーラ Sant Quirze de Besora (ウゾーナ Osona 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年582人、1787年943人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Santiago	2	A Coruña	2	Galicia/Galiza	2
St. Quirze de Besora	1	Barcelona	1	Catalunya	1
計3人					

表25

ムニストロール・ダ・モンサラット Monistrol de Montserrat (バージャス Bages 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年339人、1787年1,341人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
León	2	León	2	Castilla y León	2
Vilaxoán	1	Pontevedra	1	Galicia/Galiza	1
計2人(延べ3人)					

表26

ベルガ Berga (バルガダール Bergadà 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年1,802人、1787年3,366人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Valladolid	1	Valladolid	1	Castilla y León	1
?	1	?	1	Galicia/Galiza	1
計 2人					

表27

ブラーナス Blanes (セルバ Selva 郡、ジローナ Girona 県) 人口：1717年1,829人、1787年3,783人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Castelló de la Plana	1	Castelló	1	València	1
Blanes	1	Girona	1	Catalunya	1
計 2人					

表28

バルセローナ Barcelona (バルサルネス Barcelonès 郡、バルセローナ Barcelona 県) 人口：1717年35,928人、1787年100,160人					
駐在地	人数	県	人数	自治州	人数
Buenos Aires	1	スペイン領アメリカ植民地			1
Córdoba	1	Córdoba	1	Andalucía	2
Málaga	1	Málaga	1		
Lorca	2	Murcia	3	Murcia	3
Murcia	1				
Barcelona	21	Barcelona	21	Catalunya	21
計26人(延べ27人)					

## 結びにかえて

カスタンニュー社の『販売台帳1780-88年』の分析が18世紀カタルーニヤ綿業の研究に投げかけている新たな視点は、大きくいって2点あった。

一つは、カスタンニュー社の場合、少なくとも1781年から86年にかけて、更紗を上回る量の捺染亜麻布が生産されていて、しかも、国内で販売された捺染亜麻布は、国内で販売された更紗を少なくとも1781年から86年においては、量において上回っていたことである。つまり、更紗は主に国内市場に販売され、捺染亜麻布は主に植民地市場に販売されていたとする従来の二分法が多少なりとも修正されなければならない可能性を、筆者が今回行ったカスタンニュー社の『販売台帳』の分析は示していることになる。

そして、捺染亜麻布が植民地のみならず国内市場でも好んで消費された理由として考えられるのは、捺染亜麻布が誇った質や価格の点での幅広い品揃えであった。捺染亜麻布は、この豊富な品揃えという点で、カタルーニヤ産更紗をはるかに上回った。

また、これと合わせてカスタンニュー社の事例でもう一ついえることは、更紗の生産が1780年代を通して確実に増加している点である。1780年代は、従来のマルタ綿糸による更紗生産に加えて、植民地産綿花を用いた紡績がカタルーニヤで急速に発展するとともに、紡績機の利用が始まった時期でもあった。このことから、この時期に更紗の質が向上していったことで、とりわけ国内市場において、更紗の消費が捺染亜麻布に対抗しつつ増加していったのではないかと、というあらたな仮説を提示することができるのではないかと考える。

いずれにせよ、1780年代と90年代前半に激増し、戦乱が増加していく90年代後半以後減少していったバルセローナにおける捺染亜麻布とは何だったのかという点については、いまだ多くの疑問が残る。近年サンチェスは、バルセローナは、1780年代から90年代前半にかけて、更紗と捺染亜麻布の生産量を合わせると、ヨーロッパで最大の捺染織物産地だったと主張している。では、亜麻布の捺染というのは、ヨーロッパでは、バルセローナにおいてのみ、しかも1780年代から90年代に時代のあだ花のように行われた事業だったのだろうか。

また、これも近年サンチェスが指摘し<sup>38)</sup>、筆者もサンチェスが用いたのとは異なる一次史料において確認しているのは<sup>39)</sup>、捺染亜麻布の植民地へ



の輸出は、その帰り荷として、植民地産綿花の輸入を促進していたということである。とすると、亜麻布というヨーロッパ在来の「古い物産」に捺染というヨーロッパにとっての「新しい技法」を施すことによって、植民地産綿花という「新しい原料」の輸入が促されていたという仮説を提示することができるであろう<sup>40)</sup>。この点も今後さらに研究されるべき点である。

カスタンニュー社の『販売台帳1780-88年』の分析が18世紀カタルーニャ綿業の研究に投げかけている新たな視点の二つ目は、その分析の結果が、カスタンニュー社という一つの更紗製造企業が、3章で記した3種類の商人ネットワークを同時に駆使することによって、国内市場および植民地市場に自社の商品を販売しながら成長していった様子を鮮明に示している点である。つまり、このことから、18世紀のバルセローナを中心とする更紗製造業、さらには同世紀のカタルーニャ綿業の発展そのものにとって、この3種類のカタルーニャ商人ネットワークの存在が極めて重要な役割を果たしていたと考えられるのである。

18世紀のカタルーニャの経済発展の象徴的な現象ともいえるカタルーニャ商人ネットワークの形成・展開と18世紀カタルーニャ綿業との密接な関係性は、カタルーニャで18世紀を扱う史家のあいだでは暗黙の了解事項とされてきたものの、その両者の関係性を正面から論じた研究はほとんど行われてこなかったし、カタルーニャ商人ネットワークの研究も、出身地別の研究（特にクポンスなど）や駐在地別の研究がほとんどだった。それゆえに、カスタンニュー社の『販売台帳1780-88年』の分析によって、更紗製造企業が、実際にどのようにカタルーニャ商人ネットワークを利用して商品を販売していたのかが分かったことは、18世紀カタルーニャ綿業の研究において少なからぬ意義を持つものと思われる。

そして、『販売台帳』の分析によって分かることは、3種類の商人ネットワークが、それぞれにそのネットワークの展開の仕方に特徴を持つだけでなく、同じ種類のなかでも、市町村ごとにネットワークの展開の仕方に特徴が見られるということである。それゆえに、このような多様なネットワークを重層的に組み合わせることで、カスタンニュー社はスペインの幅広い地域に商品を販売することができたといえよう。植民地への輸出が、カネットの商人を中心とするカタルーニャ商人ネットワークに大きく依存していた点も重要である。

また、2章で見た表4「カタルーニャの内訳」に出てくる販売地が、の

きなみ3章に出てくる商人ネットワークの重要な輩出地であることから、表4ではこれらの場所に販売されたことになっている商品の内の少なからぬ部分は、実際は、カタルーニャの外で販売されていた可能性があることも付け加えておく。

では、なぜ、18世紀にスペイン各地に交易離散共同体(コマーシャル・ディアスポラ)としてカタルーニャ商人ネットワークが形成され、カタルーニャの製造業者たちは、このネットワークを好んで利用していたのであろうか。

この点については、筆者はかつて、マーシャルの産業集積論を用いて、18世紀カタルーニャ商人ネットワークは、中北部農村工業地域の産業集積の結果として生じた補助産業であったと記した<sup>41)</sup>。

だが、この点について、トーラスは、グライフの研究成果を参考にしながら、さらに次のような説明を試みている。18世紀のスペインでは、いまだ地域間で法的・制度的な違いや商慣習での違いが大きかったが、スペインのなかで民族的・言語的にマイノリティーであったカタルーニャ人は、まさにその民族的・言語的なマイノリティーという点を最大限利用しながらスペイン各地に閉鎖的ネットワークを形成することによって、カタルーニャ産品をスペイン他地域で販売する際の取引費用を低く抑えていた<sup>42)</sup>。

民族的・言語的マイノリティーによって形成された交易離散共同体を取引費用の概念を用いて説明しようとするトーラスのこの見解は大変興味深いものであるが、この点については、別稿にてより詳細に論じることとしたい。

## 注

- 21) 表10～表27と、表28の典拠は、表2と同じく、Arxiu Nacional de Catalunya (A.N.C.) Fons Castañer, 02.04.25.02, Llibre de major de Josep Castañer 1780-1788. 人口のデータは、Pierre Vilar, *Catalunya dins l'Espanya moderna, vol. 3, Les transformacions agràries del segle XVIII català*, Barcelona, Edicions 62, 1966, pp. 141-181.
- 22) 『販売台帳』で、商人の数が一人しか検出できなかった町村については、表にしなかった。
- 23) Jaume Torras, *Fabricants sense fàbrica: Els Torelló, d'Igualada (1691-1794)*,

- Eumo Editorial, Vic, 2007.
- 24) Jaume Torras, “La penetració comercial catalana a l’Espanya interior en el segle XVIII. Una proposta d’explicació”, dins *Els catalans a Espanya, 1760–1914*, Universitat de Barcelona/Editorial Afers, 1996, pp. 27–30; Ernest Lluch, *Las Españas vencidas del siglo XVIII*, Crítica, Barcelona, 1999; Assumpta Muset, “Catalunya y el mercado español en el siglo XVIII”, dins *Els catalans a Espanya, 1760–1914*, Universitat de Barcelona/Editorial Afers, 1996, pp. 419–428.
  - 25) Assumpta Muset, *Catalunya i el mercat espanyol al segle XVIII: els traginers i els negociants de Copons i Calaf al segle XVIII*, Publicacions de l’Abadia de Montserrat, Barcelona, 1997.
  - 26) DD.AA., *Els catalans a Espanya, 1760–1914*, Universitat de Barcelona/Editorial Afers, 1996. 所収の数編の論文。
  - 27) 例えば、Alex Sánchez, “L’estructura comercial d’una fàbrica d’indianes barcelonina: Joan Rull i Cia. (1790–1821)”, *Recerques: història, economia, cultura*, núm. 22, 1989, pp. 9–24. この論文では、更紗製造企業ルイ社とカネットの商人との関係について言及されている。
  - 28) Eugenio LARRUGA, *Memorias políticas y económicas sobre los frutos, comercio, fábricas y minas de España*, t. XXI, Madrid, (D. Antonio Espinosa) 1792, p. 168; *Almanak Mercantil ó Guía de Comerciantes para el año de 1796. Por D. D.M.G.*, Madrid (vda. de D. Joaquín Ibarra), p. 241; Torras, “Penetració comercial...”, pp.27–28.
  - 29) この点については、例えば次を参照。奥野「18世紀カタルーニャの地域工業化」47–69頁。奥野「スペインの地域的多様性」31–43頁。南西部のブドウ栽培・蒸留酒醸造業、中北部の農村毛織物業、中北部の農村綿業のそれぞれの立地については、奥野良知「スペイン・カタルーニャの地域工業化」市川文彦他『フランス経済社会の近現代』関西学院大学出版会、2009年、57頁の図1～図2、60頁の図3を参照。
  - 30) トウルタリヤーの農村工業については、Francisco de Zamora, *Diario de los viajes hechos en Cataluña*, Barcelona, Ed. Curial. 1973, pp. 322–323.
  - 31) Zamora, *Diario de los viajes...*, p. 264.
  - 32) Zamora, *Diario de los viajes...*, pp. 322–323.
  - 33) Assumpta Muset, *Catalunya i el mercat espanyol*, pp. 120–127.
  - 34) Ayuntamiento de Valderas のHP (<http://www.aytovalderas.es/index.php/mod.pags/mem.detalle/idpag.12/idmenu.124/chk.11c50ccc47e4823716da760d82f22ce.html>). 2012年10月5日閲覧。
  - 35) Torras, *Fabricants sense fàbrica*, pp. 159–191; Muset, “Catalunya y el mercado español”, pp. 419–428.

- 36) 1786年時点で、人口規模1位はバルセローナ100,160人、2位レウス Reus 14,514人、3位タラゴーナ Tarragona 9,909人、4位マタロー Mataró 9,657人。
- 37) イグアラダ、ベルガ、マンリエウの農村工業と工業化については、奥野「18世紀カタルーニャの地域工業化」47-69頁。
- 38) Sánchez, “Crisis económica y respuesta empresarial”, p. 493.
- 39) Biblioteca de Catalunya, Fons Gònima, Cartes rebudes de Companyia de Filats, 1786, CAMPLLOCH i GUARRO, Salvador, i fill / Mataró {1-5}, Caixa (65/1).
- 40) ここでいう植民地産綿花という「新しい原料」とは、短繊維のレヴァント綿（アジア綿）に対する長繊維のアメリカ綿のことである。この仮説については、平成23年度愛知県立大学公開講座「世界史へのまなざし」の奥野良知「世界史のなかのカタルーニャの工業化ーバルセローナ、ヨーロッパ最大の捺染織物産地？ー」2011年11月26日でより詳細に論じた。要旨集『平成23年度愛知県立大学公開講座「世界史へのまなざし』35-38頁。また、この仮説の形成に際しては、鈴木良隆「18世紀ヨーロッパ製造業における模倣と代替」『社会経済史学』第72巻3号、2006年、25-40頁から多くの示唆を得ている。
- 41) 例えば、奥野「18世紀カタルーニャの地域工業化」57頁。奥野「スペインの地域的多様性」、31-43頁。
- 42) Torras, “Penetració comercial...”, pp. 28-30. 奥野「スペインの地域的多様性」、34-35頁。